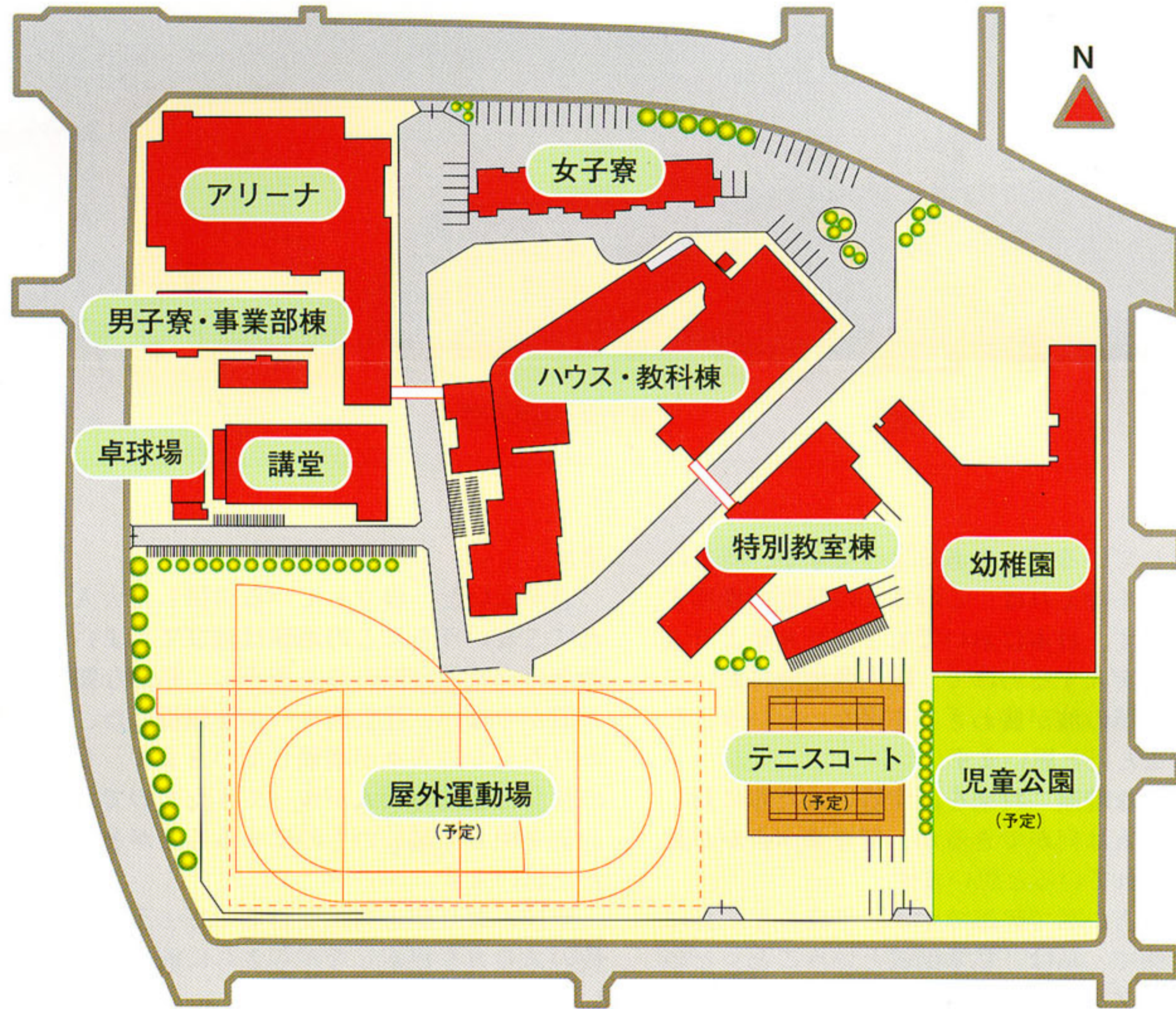


学校法人スコール
創立70周年記念事業 完成予想図



お知らせ

学校法人スコール70周年記念事業
「感謝と歌の集い」

2004年6月26日(土)

竣工式	10:30 ~ 11:30
校内見学	11:30 ~ 12:00
昼食	12:00 ~ 13:00
沢知恵校歌命名コンサート	14:00 ~ 15:30



ΣΧΟΛΗ
協力会報

NO.48 [平成16年2月]

発行

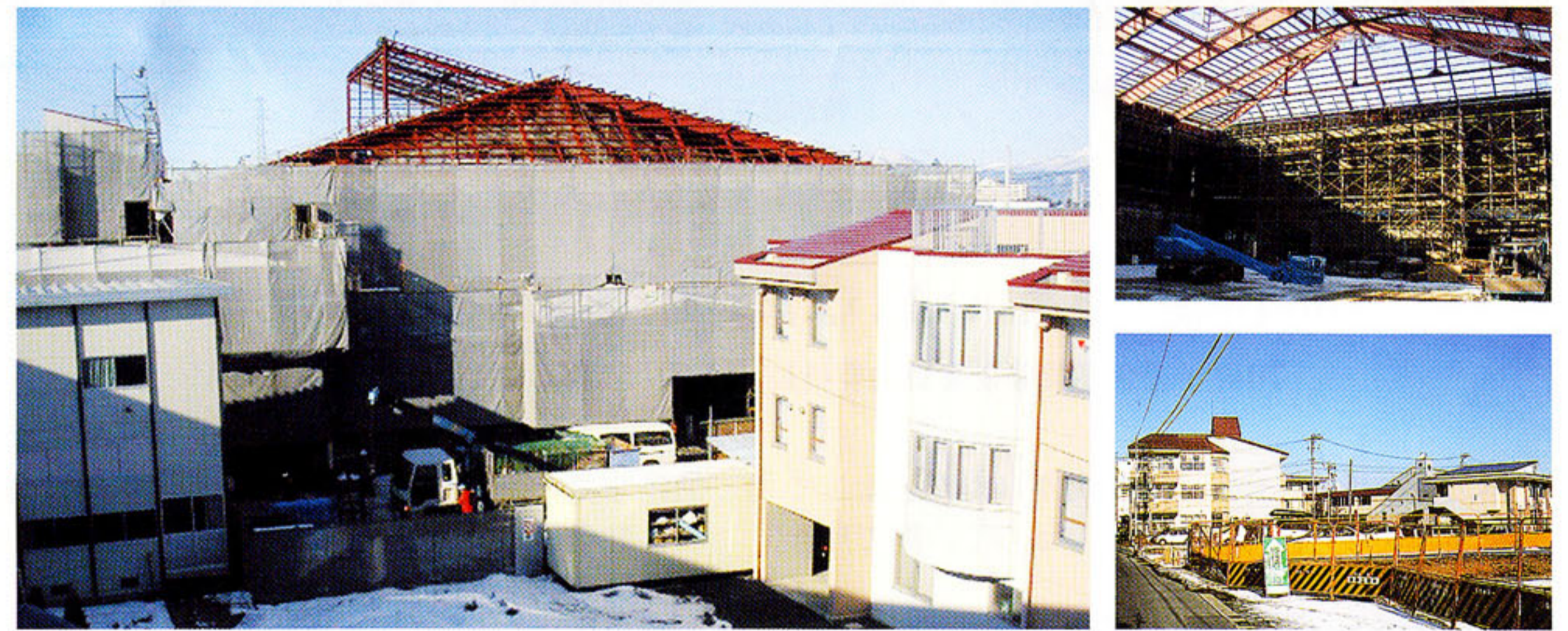
スコール協力会

〒020-0851
岩手県盛岡市向中野字才川2-3
TEL.019-636-0827(代)
FAX.019-636-0830
E-mail. info@schole.jp
http://www.schole.jp
振替口座02380-0-479

【70周年記念事業の内容】 *○は既に完了、▲は平成15年度末完成予定

- 盛岡スコール高等学校と校名変更
- ハウス棟改築
- 一部男子生徒入学
- ▲体育館新築
- 総合学科制導入
- 教科教室棟改築
- 全学男子生徒入学
- ▲男子寮・事業部
レストラン棟新築
- 特別教室棟新築
- 桐花寮新築
- 幼稚園移転新築

募金目標金額
100,000,000円
[現在達成金額: 35,412,257円]



変革の時代

協力会会長 谷澤 篤則

会員の皆様お元気ですか。いつもご協力いただきありがとうございます。

70周年の大きな事業も最終期を迎え、この学園の真価が問われるときとなりました。

前理事長吉田幾世先生の学園葬に際し、理事長の挨拶の中にあつたように先生の生涯1912年から2003年までの90余年は本当に激動の1世紀でした。そして今また日本の状況も世界が変わるにつれて大きく変わろうとしています。初代協力会会長の毛利卓氏(現毛利理事長父君)が1946年敗戦の地満州より身一つで帰国し、荒涼とした祖国を見てこれからこの国に必要なものは教育であると我が身を振り返りながらしみじみと述懐し、そして義母(毛利二郎氏祖母)とその娘(前理事長)が始めた生活学校を応援しようと始まったのがこの協力

会の始まりだと伺っております。

おそらく民活導入という施策はあらゆるジャンルにわたって進むでしょう。国鉄も通信も郵政も道路も時代の流れの中にあります。教育もその影響から逃れるわけにはいきません。単なる私学の振興と言うような問題はあつたという間に突き抜け、地球レベルでの人類の知恵が問われる時代に突入していくと思われまふ。読んで覚えるものを知識として重宝していた時代は遠く過ぎ去り、生活に根ざした考える知識が実効を生む時代になります。

楽しさと生きる術が重なるような生き方をしなくてはなりません。そういう意味で「生活即教育」のスコールに期待するもの大なのであります。会員の皆様どうかよろしくご支援の程お願いいたします。



70周年記念事業 いよいよ最終期、事業募金最後のお願い

70周年記念事業募金委員会委員長 毛利 二郎 (学校法人スコール理事長)

協力会の皆様、いつもご協力をいただきまして誠にありがとうございます。しばらくの間ご無沙汰申し上げました。

本来であれば去年の夏に一度ご報告を申し上げるべきでしたが、前理事長吉田幾世先生の突然の訃報に接し夏の会報を繰り下げさせていただきましたことをご了承いただければと存じます。

またその節は会員の皆様より、多くのお悔やみと励ましの志をいただきましたこと、ここに改めて心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

さてご報告が遅れ誠に申し訳ございませんが、学園では70周年を期して平成15年度より法人名を変更し、新たに学校法人スコールとして、新しく出発したところでございます。

ご存じのように、盛岡南地区の都市開発に伴う地域の整備事業にあわせ、また一方で新しい時代の流れにあわせた学校づくりを目指して始まった70周年記念事業も、いよいよ最終局面を迎えております。

お陰様で、今まで新しい学校づくりに励んで参りましたが、ハードとしての新校舎等は一応の完成を迎えるところまで進行しており、残るは新規

道路事業の遅延により遅れた校庭の整備、駐輪場、駐車場等の外周部を含む外構工事となりました。反面ソフト面でのこれからの学校の運営が本当の意味で大事になってきました。

70周年記念としてスタートしたこの記念事業は、平成9年高等学校特別教室棟、10年校名変更、学科改変、高等学校ハウス棟・教科教室棟、11年女子寮移転、13年幼稚園移転新築、15年体育館、ハウス棟新築、事業部、男子寮新築と順番は若干入れ替わりましたが、当初予定していた事業が今まさに完成しようとしています。

そのようなわけで、いつまでも引きずりながら記念事業募金委員会を継続するのもよくないと思ひ、残されている課題は多々ありますが、予定通り平成15年度末を持ってこの委員会を閉じようと考えています。残念ながら当初の予定金額にはまだまだ届いておりません。ここに最後のお願いを申し上げる次第であります。どうかよろしくお願い申し上げます。

さて前号でも申し上げたように、日本ばかりではなく世界のパラダイムが変革している状況はますます深まっているように思われます。いよいよ具体的に戦争に突入、何とか既存の枠組みを堅持

しようとしている国々もあるようですが、将来の世界の様子を考えれば、このままの状態では推移するとは思えず、日本においても2006年より人工衰退期に突入するわけで、国内各地域においても大きな変革の波が襲わざるを得ないということは自明のことだと思います。

このような時期に将来を託す若い人たちに対して、我々大人は何ができるか、何をすべきかが誠に重く問われていると思います。

ちょっと古い話で恐縮ですが、平成6年7月に出した会報で、私は「私学助成ということ」という標題で拙文を載せていただきました。その中で『幼稚園と高等学校は現在の日本学校制度の中では義務教育ではないということを普段あまり深く考えていないかもしれぬが、このことの意味することは大きいのではないか』という指摘をしました。そして教育費の一般財源化の問題にも触れ、芸術や文化、教育こそは行政を越えて国境を越えられる最短距離にあるのではないかという考え方も指摘しました。

奇しくも十年後に幼稚園と高校が特区として話題にあがり、三位一体の改革という訳の分からぬ呼び名で一般財源化が話題にあがっています。盛岡市内の市立高校では推薦入試で40%の生徒を確保すると言ひだし、巷では相も変わらず「センター入試」が跋扈している中、多くの大学が推薦入試で学生を集めその学力低下現象をを嘆いてい

ます。

急がないと、自立している自律した大人が生まれてこないうちにこの地球は滅びてしまいます。他者の存在との関わりを拒否し、私的な関係でしか繋がらない、社会的ルールを無視した、大人になりたくない人々が増殖していきます。しかしこの社会は私たち大人が作ってきたものです。この社会を明るく楽しいものにすることがとても大切だと思います。

学校の有り様も当然変わるでしょう。新しい学校のあり方を模索しながらさらに前進していきたいと思っています。

「生活即教育」を建学の精神に掲げている学園の真価が問われてくるのは、いよいよこれからだと思います。どうかよろしくご支援ご協力の程お願い申し上げます。

